

## 線形写像の表現行列 演習問題3 解答例

本演習問題における基底取り替え行列は、次の意味で用いる\*<sup>1</sup>.

- $\mathcal{A} = \{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n\}$  と  $\mathcal{B} = \{\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n\}$  を  $\mathbb{R}^n$  の 2 組の基底とする. このとき  $\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n \in \mathbb{R}^n$  で  $\mathcal{A} = \{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n\}$  が  $\mathbb{R}^n$  の基底であるから

$$\begin{cases} \mathbf{b}_1 = p_{11}\mathbf{a}_1 + p_{21}\mathbf{a}_2 + \cdots + p_{n1}\mathbf{a}_n \\ \mathbf{b}_2 = p_{12}\mathbf{a}_1 + p_{22}\mathbf{a}_2 + \cdots + p_{n2}\mathbf{a}_n \\ \vdots \\ \mathbf{b}_n = p_{1n}\mathbf{a}_1 + p_{2n}\mathbf{a}_2 + \cdots + p_{nn}\mathbf{a}_n \end{cases} \quad (2.1)$$

と一意的に表せる. このとき  $n$  次正方行列

$$P = \begin{bmatrix} p_{11} & p_{12} & \cdots & p_{1n} \\ p_{21} & p_{22} & \cdots & p_{2n} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ p_{n1} & p_{n2} & \cdots & p_{nn} \end{bmatrix}$$

を基底  $\mathcal{A}$  から基底  $\mathcal{B}$  への**基底取り替え行列**という. 名前の通り, 基底を  $\mathcal{A}$  から  $\mathcal{B}$  へ取り替えたとき, その違いを表す行列である. 実際, 連立した式 (2.1) は行列を使って

$$[\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n] = [\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n]P$$

と表せることに注意せよ.  $\mathcal{A} = \{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n\}$  は  $\mathbb{R}^n$  の基底であり, とくに 1 次独立な  $\mathbb{R}^n$  に属す  $n$  個のベクトルの組であるから,  $[\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n]$  は正則になることに注意すると, 基底  $\mathcal{A}$  から基底  $\mathcal{B}$  への基底取り替え行列は

$$P = [\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n]^{-1}[\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n] \quad (2.2)$$

で定まる  $n$  次正方行列であると言い換えることもできる.

以上を踏まえた上で, 次の問に答えよ.

**問題 1.**  $\mathcal{A} = \{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n\}$  と  $\mathcal{B} = \{\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n\}$  を  $\mathbb{R}^n$  の 2 組の基底とし,  $P$  を基底  $\mathcal{A}$  から基底  $\mathcal{B}$  への基底取り替え行列とする. このとき, 以下の問に答えよ.

- (i)  $P$  は正則行列であり,  $P^{-1}$  は基底  $\mathcal{B}$  から基底  $\mathcal{A}$  への基底取り替え行列になることを示せ.

**解答.** (2.2) を思い出すと,  $P = [\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n]^{-1}[\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n]$  であり, 正則な 2 つの行列  $[\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n]^{-1}$  と  $[\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n]$  の積である  $P$  も正則である (正則行列同士の積や正則行列の逆行列は正則であった). また,  $P^{-1}$  は

$$\begin{aligned} P^{-1} &= ([\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n]^{-1}[\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n])^{-1} = [\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n]^{-1}([\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n]^{-1})^{-1} \\ &= [\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n]^{-1}[\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n], \end{aligned}$$

すなわち  $[\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n] = [\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n]P^{-1}$  となるから,  $P^{-1}$  は基底  $\mathcal{B}$  から基底  $\mathcal{A}$  への基底取り替え行列である. ■

\*<sup>1</sup> 定義や記号の使い方は, 「村上正康・佐藤恒雄・野澤宗平・稲葉尚志 共著, 教養の線形代数 六訂版, 培風館」を参考にしている. 基底に関する座標, 線形写像に関する表現行列は, 同テキストもしくは直前の演習問題である「線形写像の表現行列演習問題 2」を見よ.

- (ii)  $\text{id}: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^n$  を恒等写像とする. すなわち各  $\mathbf{x} \in \mathbb{R}^n$  に対して  $\text{id}(\mathbf{x}) = \mathbf{x}$  で定まる線形写像である. その基底  $\mathcal{B}$  と基底  $\mathcal{A}$  に関する表現行列は  $P$  と等しいことを示せ.

**解答.**  $\text{id}$  の  $\mathcal{B}$  と  $\mathcal{A}$  に関する表現行列を  $F$  とおくと,  $F$  は

$$[\text{id}(\mathbf{b}_1), \text{id}(\mathbf{b}_2), \dots, \text{id}(\mathbf{b}_n)] = [\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n]F$$

をみたすただ 1 つの行列であった. 一方,  $\text{id}$  と基底取り替え行列の定義から

$$[\text{id}(\mathbf{b}_1), \text{id}(\mathbf{b}_2), \dots, \text{id}(\mathbf{b}_n)] = [\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n] = [\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n]P$$

が成り立つ. よって  $F = P$  とわかる. ■

- (iii)  $\mathbf{x} \in \mathbb{R}^n$  に対し, その  $\mathcal{A}$  に関する座標と  $\mathcal{B}$  に関する座標をそれぞれ

$$\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix}, \quad \begin{bmatrix} x'_1 \\ x'_2 \\ \vdots \\ x'_n \end{bmatrix}$$

とする. このとき

$$\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix} = P \begin{bmatrix} x'_1 \\ x'_2 \\ \vdots \\ x'_n \end{bmatrix}$$

となることを示せ (つまり, 旧座標は新座標に左から基底取り替え行列を掛けたものと等しい).

**解答.** (ii) より  $P$  は恒等写像  $\text{id}: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^n$  の基底  $\mathcal{B}$  と基底  $\mathcal{A}$  に関する表現行列であるから,  $\mathbf{x}$  の  $\mathcal{B}$  に関する座標と  $\text{id}(\mathbf{x}) = \mathbf{x}$  の  $\mathcal{A}$  に関する座標の関係から示すこともできる. ここではより直接的に示す.  $\mathbf{x}$  の  $\mathcal{A} = \{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n\}$  に関する座標が

$$\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix}$$

であるということは

$$\mathbf{x} = x_1\mathbf{a}_1 + x_2\mathbf{a}_2 + \cdots + x_n\mathbf{a}_n = [\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n] \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix}$$

という意味であった. 同様に

$$\mathbf{x} = x'_1\mathbf{b}_1 + x'_2\mathbf{b}_2 + \cdots + x'_n\mathbf{b}_n = [\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n] \begin{bmatrix} x'_1 \\ x'_2 \\ \vdots \\ x'_n \end{bmatrix}$$

とわかるので

$$[\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n] \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix} = [\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n] \begin{bmatrix} x'_1 \\ x'_2 \\ \vdots \\ x'_n \end{bmatrix}$$

を得る. したがって (2.2) を思い出せば

$$\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix} = [\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n]^{-1} [\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n] \begin{bmatrix} x'_1 \\ x'_2 \\ \vdots \\ x'_n \end{bmatrix} = P \begin{bmatrix} x'_1 \\ x'_2 \\ \vdots \\ x'_n \end{bmatrix}$$

が成り立つとわかる. ■

**問題 2.**  $f: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^m$  を線形写像とし,

- $\mathcal{A} = \{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n\}$  と  $\mathcal{B} = \{\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n\}$  を  $\mathbb{R}^n$  の 2 組の基底
- $\mathcal{C} = \{\mathbf{c}_1, \mathbf{c}_2, \dots, \mathbf{c}_m\}$  と  $\mathcal{D} = \{\mathbf{d}_1, \mathbf{d}_2, \dots, \mathbf{d}_m\}$  を  $\mathbb{R}^m$  の 2 組の基底,
- $F$  を基底  $\mathcal{A}$  と基底  $\mathcal{C}$  に関する  $f$  の表現行列
- $G$  を基底  $\mathcal{B}$  と基底  $\mathcal{D}$  に関する  $f$  の表現行列
- $P$  を基底  $\mathcal{A}$  から基底  $\mathcal{B}$  への基底取り替え行列
- $Q$  を基底  $\mathcal{C}$  から基底  $\mathcal{D}$  への基底取り替え行列

とする. このとき

$$G = Q^{-1}FP$$

が成立することを示せ

(Hint: 各  $\mathbf{x} \in \mathbb{R}^n$  と,  $\mathbf{y} = f(\mathbf{x}) \in \mathbb{R}^m$  に対し,  $\mathbf{x}$  の  $\mathcal{A}$  と  $\mathcal{B}$  に関するそれぞれの座標,  $\mathbf{y}$  の  $\mathcal{C}$  と  $\mathcal{D}$  に関するそれぞれの座標を考え, これらの関係性に注目せよ.).

**解答.** 任意に  $\mathbf{x} \in \mathbb{R}^n$  をとり,  $\mathbf{y} = f(\mathbf{x}) \in \mathbb{R}^m$  とおく.  $\mathbf{x}$  の  $\mathcal{A} = \{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n\}$  と  $\mathcal{B} = \{\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n\}$  に関する座標をそれぞれ

$$\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix}, \quad \begin{bmatrix} x'_1 \\ x'_2 \\ \vdots \\ x'_n \end{bmatrix}$$

とし,  $\mathbf{y}$  の  $\mathcal{C} = \{\mathbf{c}_1, \mathbf{c}_2, \dots, \mathbf{c}_m\}$  と  $\mathcal{D} = \{\mathbf{d}_1, \mathbf{d}_2, \dots, \mathbf{d}_m\}$  に関する座標をそれぞれ

$$\begin{bmatrix} y_1 \\ y_2 \\ \vdots \\ y_m \end{bmatrix}, \quad \begin{bmatrix} y'_1 \\ y'_2 \\ \vdots \\ y'_m \end{bmatrix}$$

とする。  $F$  は基底  $A$  と基底  $C$  に関する  $f$  の表現行列であったから

$$\begin{bmatrix} y_1 \\ y_2 \\ \vdots \\ y_m \end{bmatrix} = F \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix} \quad (2.3)$$

が成り立つ。同様に  $G$  は基底  $B$  と基底  $D$  に関する  $f$  の表現行列であったから

$$\begin{bmatrix} y'_1 \\ y'_2 \\ \vdots \\ y'_m \end{bmatrix} = G \begin{bmatrix} x'_1 \\ x'_2 \\ \vdots \\ x'_n \end{bmatrix} \quad (2.4)$$

が成り立つ。また、 $P$  は  $A$  から  $B$  への基底取り替え行列であったから

$$\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix} = P \begin{bmatrix} x'_1 \\ x'_2 \\ \vdots \\ x'_n \end{bmatrix} \quad (2.5)$$

が成り立ち、同様に  $Q$  は  $C$  から  $D$  への基底取り替え行列であったから

$$\begin{bmatrix} y_1 \\ y_2 \\ \vdots \\ y_m \end{bmatrix} = Q \begin{bmatrix} y'_1 \\ y'_2 \\ \vdots \\ y'_m \end{bmatrix} \quad \text{すなわち} \quad \begin{bmatrix} y'_1 \\ y'_2 \\ \vdots \\ y'_m \end{bmatrix} = Q^{-1} \begin{bmatrix} y_1 \\ y_2 \\ \vdots \\ y_m \end{bmatrix} \quad (2.6)$$

が成り立つ。(2.3), (2.5), (2.6) より

$$\begin{aligned} \begin{bmatrix} y'_1 \\ y'_2 \\ \vdots \\ y'_m \end{bmatrix} &= Q^{-1} \begin{bmatrix} y_1 \\ y_2 \\ \vdots \\ y_m \end{bmatrix} = Q^{-1} F \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix} \\ &= Q^{-1} F P \begin{bmatrix} x'_1 \\ x'_2 \\ \vdots \\ x'_n \end{bmatrix} \end{aligned}$$

とわかり、(2.4) と合わせて結果としてすべての  $\mathbf{x} \in \mathbb{R}^n$  に対して

$$G \begin{bmatrix} x'_1 \\ x'_2 \\ \vdots \\ x'_n \end{bmatrix} = Q^{-1} F P \begin{bmatrix} x'_1 \\ x'_2 \\ \vdots \\ x'_n \end{bmatrix} \quad (2.7)$$

が成り立つとわかる。とくに  $\mathbf{x} = \mathbf{c}_1$  のとき、すなわち

$$\begin{bmatrix} x'_1 \\ x'_2 \\ \vdots \\ x'_n \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ \vdots \\ 0 \end{bmatrix}$$

のとき, (2.7) より  $G$  の第 1 列と  $Q^{-1}FP$  の第 1 列が等しいことを得る. 同様に  $\mathbf{x} = \mathbf{c}_i$  ( $2 \leq i \leq n$ ) のとき (2.7) より  $G$  の第  $i$  列と  $Q^{-1}FP$  の第  $i$  列が等しいとわかる. したがって

$$G = Q^{-1}FP$$

を得る. ■

**補足** (2.3),(2.4),(2.5),(2.6) の対応を図示すると次のようになる.  $G = Q^{-1}FP$  は, (2.4) の対応は, (2.5),(2.3),(2.6) の合成と等しいということである.

